

第3章 環境指標の把握と評価

第4節 地盤沈下



「環境フェスタみさと」環境ポスター展 三郷中央ロータリークラブ賞 前間小学校 渡辺 匠 さん

第 4 節 地 盤 沈 下

1 地盤沈下調査

地盤沈下変動量

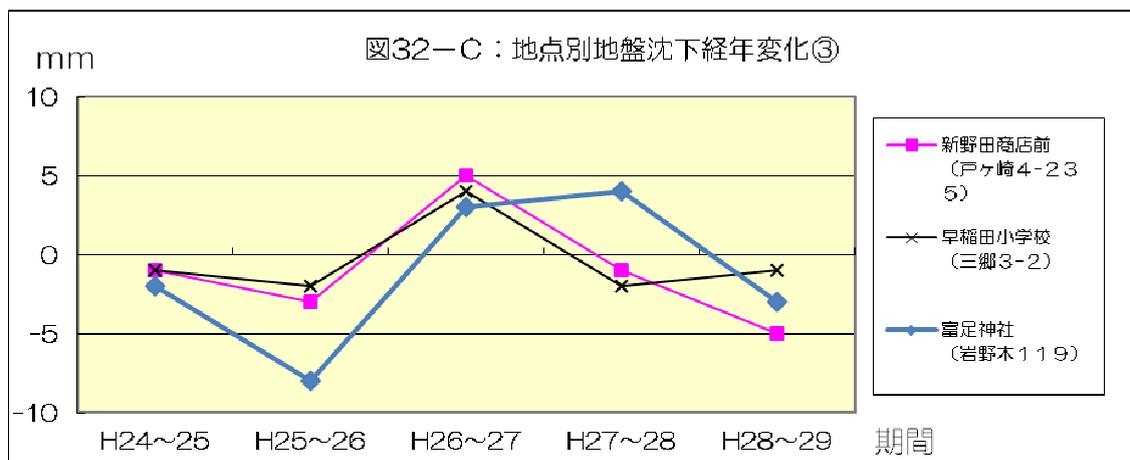
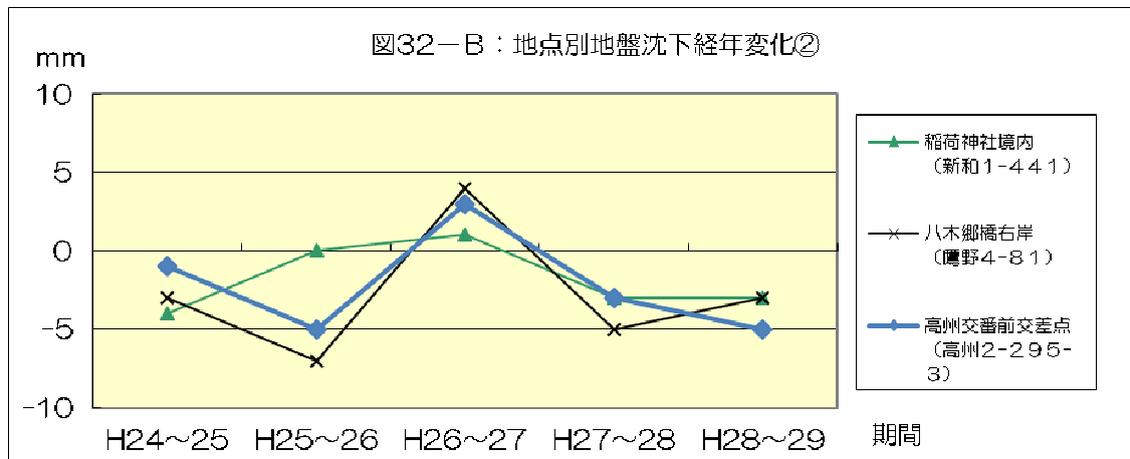
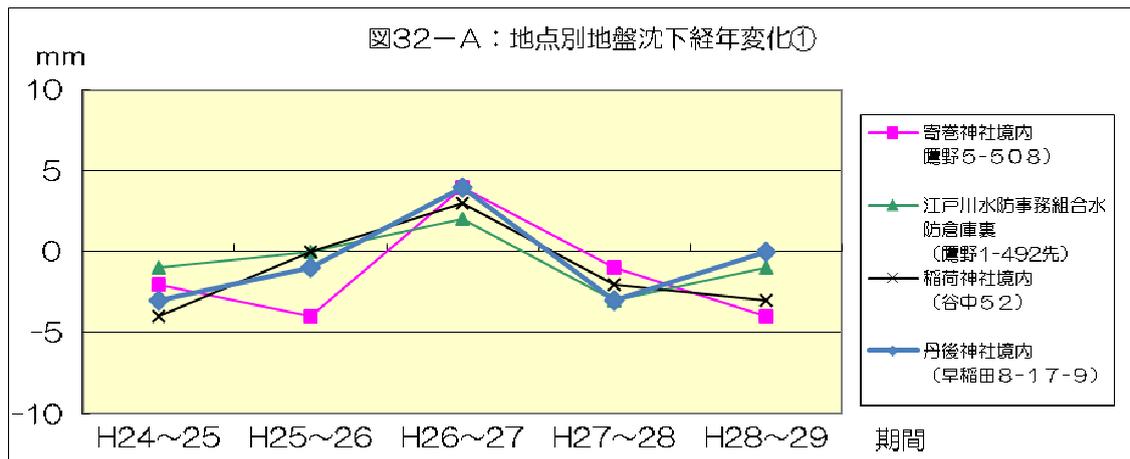
三郷市の地盤沈下に係る調査は、埼玉県が市内 10ヶ所の地点で測量調査を行なっている。
その調査結果は表 32 及び図 32-A・B・Cのとおりである。

地盤沈下変動量 [単位 : mm] (表 32)

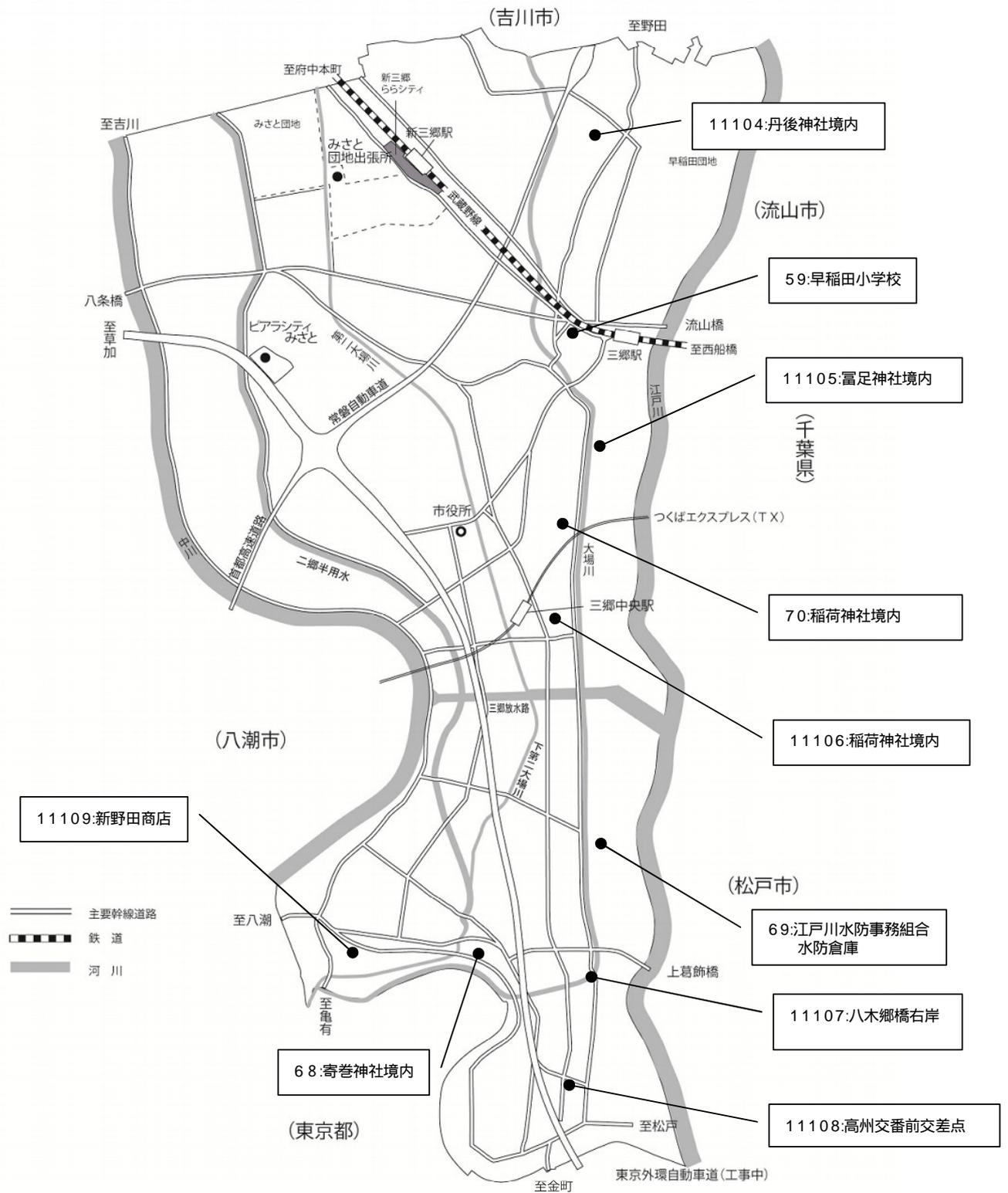
(埼玉県地盤沈下調査報告書)

基準番号	目標・所在地	調査開始	調査開始時の真高	H26-27	H27-28	H28-29	過去5年間の変動量	調査開始からの変動量	H29.1.1の真高(m)
68	寄巻神社境内 (鷹野5-508)	S36.2.1	2,750	+4	-1	-4	-6.2	-979.5	1.7479
69	江戸川水防事務組合水防倉庫 (鷹野1-492地先)	S36.2.1	2,041	+2	-3	-1	-3.7	-914.7	1.6426
70	稲荷神社境内 (谷中52)	S36.2.1	2,360	+3	-2	-3	-6.1	-1006.8	13.290
11104	丹後神社境内 (早稲田8-17-9)	S36.2.1	2,672	+4	-3	0	-3.4	-130.8	2.5171
11106	稲荷神社境内 (新和1-441)	S36.2.1	2,980	+1	-3	-3	-8.4	-1029.2	1.9273
11107	八木郷橋右岸 (鷹野4-81)	S36.2.1	2,371	+4	-5	-3	-14.0	-784.8	1.5626
11108	高州交番前交差点 (高州2-295-3)	S36.2.1	3,295	+3	-3	-5	-10.9	-431.7	2.6012
11109	新野田商店前 (戸ヶ崎4-235)	S36.2.1	2,645	+5	-1	-5	-5.1	-808.7	1.8144
59	早稲田小学校 (三郷3-2)	S58.1.1	2,380	+4	-2	-1	-2.8	-46.8	2.3089
11105	富足神社境内 (岩野木119)	S36.2.1	3,295	+3	+4	-3	-6.0	-226.1	3.0277

過去5年間の変動量は、それぞれ各年度の変動量について、小数点以下も含めた実数を合計した後、各年度については再度小数点第1位で四捨五入しているため誤差が生じている箇所もある。



地盤沈下測定地点図



地下水揚水量

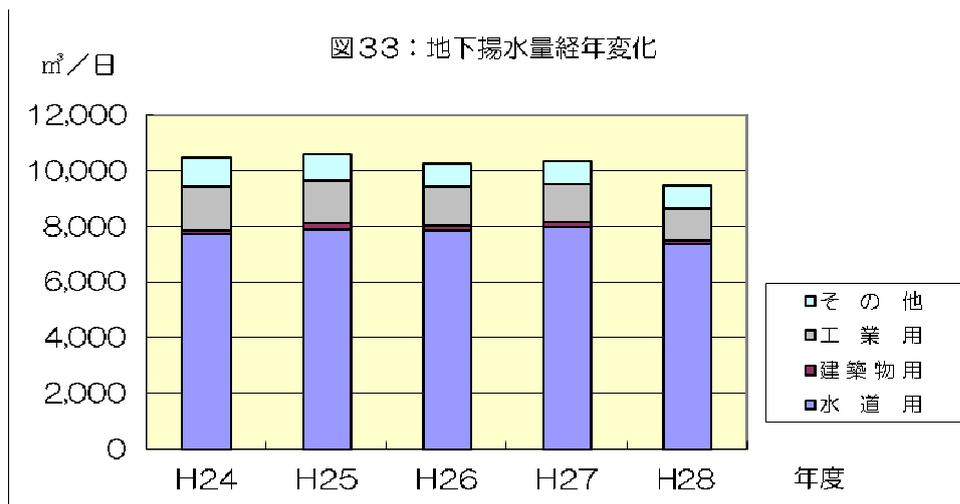
地下水揚水量は、表 33 及び図 33 のとおりである。

水道用 7,354m³/日、工業用 1,133m³/日、建築物用 147m³/日、その他 834m³/日で、計 9,468m³/日である。その他以外の項目は、前年度に比べて減少した。

地下水揚水量全体でも、過去 5 年間（図 3 3 参照）の経年変化でも、H 2 8 年度は最も低い結果となっている。（図 33 参照）

地下水揚水量経年変化（表 33）[単位：m³/日]

項目・年度	26年度	27年度	28年度
水道用	7,859	7,993	7,354
建築物用	170	161	147
工業用	1,413	1,370	1,133
その他	828	806	834
計	10,270	10,330	9,468



第3章 環境指標の把握と評価

第5節 苦情処理状況



「環境フェスタみさと」環境ポスター展 江戸川を守る会三郷支部賞 鷹野小学校 田中 麻唯 さん



「環境フェスタみさと」環境ポスター展 生活協同組合コープみらい賞 瑞木小学校 野口 心愛 さん

第 5 節 苦 情 処 理 状 況

苦情処理の概要

苦情処理件数（表 34 及び図 34 参照）は、年間で 277 件あり、このうち、典型 7 公害（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭）についての苦情が 103 件、その他が 174 件である。

昨年度までとはデータの取り方を変更したため苦情件数が増加した。昨年度と比較すると、複合型公害の苦情は増加の傾向にある。騒音や振動を発生する施設や作業を行う事業者の近隣の住民のかたへの十分な配慮が求められている。

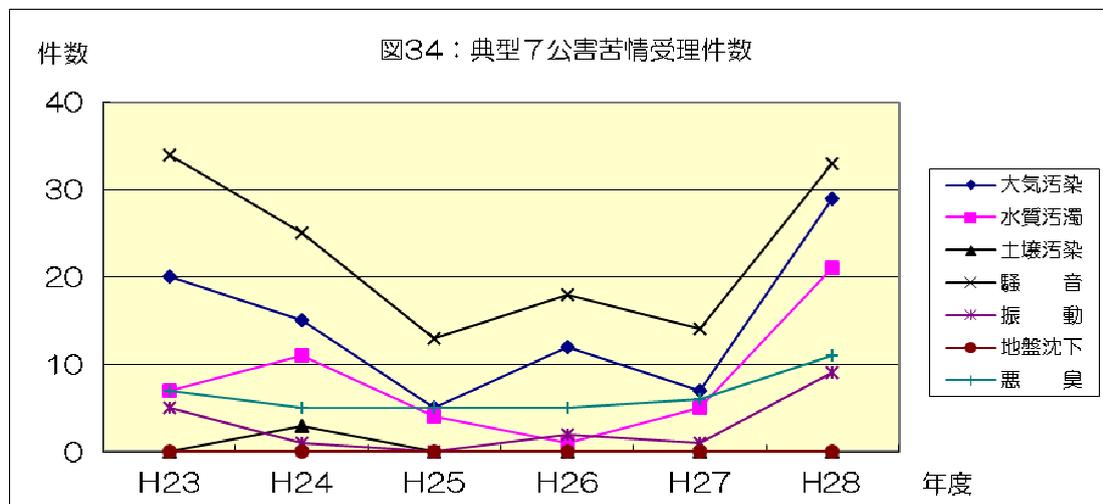
その他の苦情については、ほとんどが雑草の繁茂によるものである。あき地の所有者や管理者の適正な管理が求められている。

年度別苦情処理件数 [単位 : 件] (表 34)

項目・年度		26年度	27年度	28年度
典型 7 公害	大気汚染	12	7	29
	水質汚濁	1	5	21
	土壌汚染	0	0	0
	騒音	18	14	33
	振動	2	1	9
	地盤沈下	0	0	0
	悪臭	4	6	11
その他	50	87	174	
合計	87	120	277	



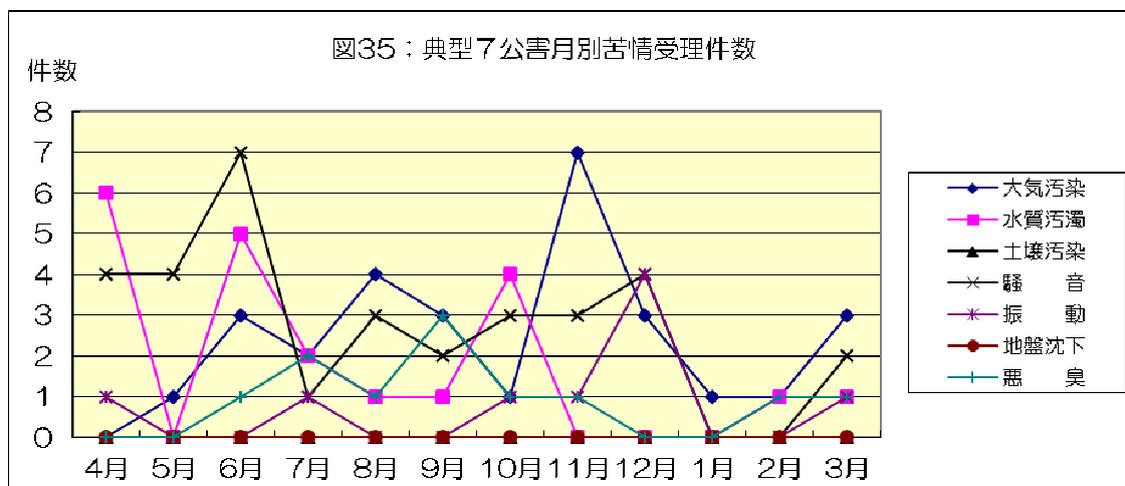
野外焼却の現場の様子



月別苦情処理件数(表35及び図35参照)をみると、3月から12月くらいにかけて苦情が多く、年始には少ないという傾向がわかる。また、データの取り方を変更したため、前年度と比べると全体的に増加の傾向がみられた。

月別苦情件数(表35)

項目・月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大気汚染	0	1	3	2	4	3	1	7	3	1	1	3	29
水質汚濁	6	0	5	2	1	1	4	0	0	0	1	1	21
土壌汚染	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
騒音	4	4	7	1	3	2	3	3	4	0	0	2	33
振動	1	0	0	1	0	0	1	1	4	0	0	1	9
地盤沈下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
悪臭	0	0	1	2	1	3	1	1	0	0	1	1	11
その他	4	27	26	25	32	11	15	8	7	4	6	9	174
合計	15	32	42	33	41	20	25	20	18	5	9	17	277



第3章 環境指標の把握と評価

第6節 ダイオキシン類



「環境フェスタみさと」環境ポスター展 NEXCO東日本賞 彦郷小学校 山本 一牙 さん



「環境フェスタみさと」環境ポスター展 東京ガス株式会社東部支店長賞 彦成小学校 田中 奈々 さん

第 6 節 ダイオキシン類

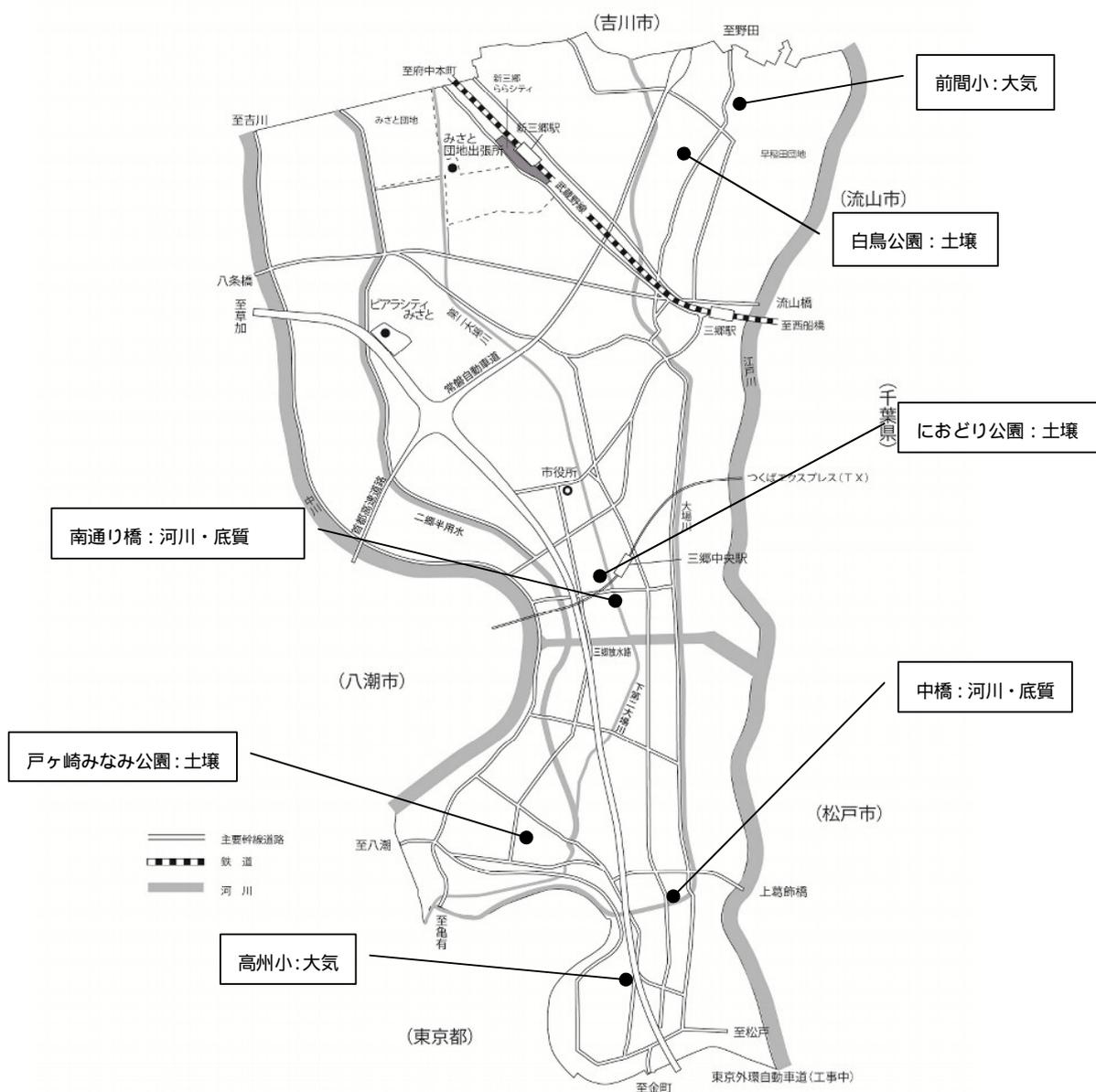
1 環境基準等

環境基準値

環境項目	単 位	環境基準値
大 気	pg - TEQ / m ³	0.6
土 壌	pg - TEQ / g	1,000
河 川 水	pg - TEQ / ㎖	1
河 川 底 質	pg - TEQ / g	150
耐容 1 日 摂取量	pg - TEQ / 体重 kg / 日	* 4

注：pg (ピコグラム) = 1兆分の1

ダイオキシン類測定地点図



2 ダイオキシン類の調査

大気の測定結果と評価

大気中のダイオキシン類調査を2地点で各2回行なった。その調査結果は表36のとおりである。

大気中におけるダイオキシン類の環境基準(0.6pg-TEQ/m³)と比較して、2地点とも基準値を下回っている。

H28年度・ダイオキシン類(大気)測定結果

[単位: pg-TEQ/m³(ピコグラム)](表36)

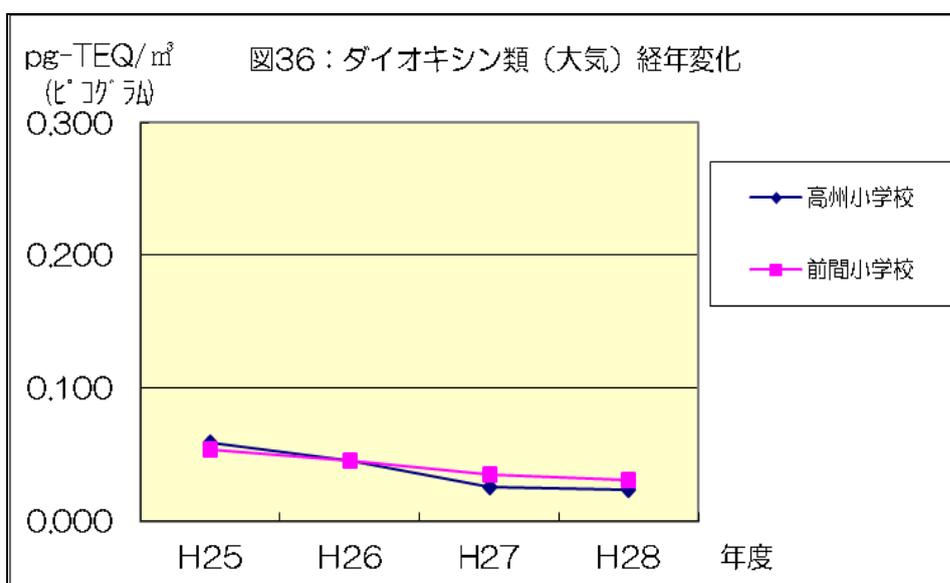
地点・年月	H28 8/8~8/15	H29 1/24~1/31	年平均
高州小学校	0.016	0.031	0.024
前間小学校	0.014	0.047	0.031



分析機関での分析の様子

ダイオキシン類(大気)経年変化 [単位: pg-TEQ/m³(ピコグラム)] (表37)

地点・年	H25	H26	H27	H28
高州小学校	0.059	0.046	0.026	0.024
前間小学校	0.054	0.046	0.035	0.031



土壌の測定結果と評価

土壌中のダイオキシン類調査についての調査結果は表 38 のとおりである。数値は 0.22 ~ 8.3pg - TEQ / g となり、3 地点の平均値は 4.14pg - TEQ / g となる。

土壌中におけるダイオキシン類の環境基準値(1,000pg - TEQ / g)と比較すると、測定値は基準値を大きく下回っている。

ダイオキシン類(土壌)測定結果 [単位: pg-TEQ/g (ピコグラム)](表 38)

地点・年	H26	地点・年	H27	地点・年	H28
におどり公園	3.9	よまき公園	8.3	におどり公園	8.3
戸ヶ崎 みなみ公園	3.4	彦成公園	1.8	戸ヶ崎 みなみ公園	3.9
白鳥公園	1.2	さつき平 ふれあい公園	0.011	白鳥公園	0.22

河川底質の測定結果と評価

河川底質中のダイオキシン類調査についての調査結果は表 39 のとおりである。調査場所は、大場川及び第二大場川のそれぞれ1ヶ所を調査し、平均値は 32.5pg - TEQ / g であった。

河川底質中におけるダイオキシン類の環境評価については、環境基準(150pg-TEQ / g)との比較では、それぞれの調査地点において基準値よりも低い数値であった。

ダイオキシン類(河川底質)測定結果 [単位: pg-TEQ/g (ピコグラム)](表 39)

地点・年	H26	地点・年	H27	地点・年	H28
新和仲橋 (大場川)	7.4	八木郷橋 (大場川)	6.3	中橋 (大場川)	5.5
蓮沼橋 (第二大場川)	8.7	第二彦糸橋 (第二大場川)	2.3	南通り橋 (第二大場川)	9.9

河川水の測定結果と評価

河川水中のダイオキシン類調査についての調査結果は表 40 のとおりである。調査場所は、大場川及び第二大場川のそれぞれ1ヶ所を調査し、平均値は 1.29pg - TEQ / g であった。

調査地点 2 地点中1地点は、環境基準値(1pg-TEQ / g)内であったが、中橋においては、環境基準値を超える結果となっていた。

ダイオキシン類(河川水)測定結果 [単位: pg-TEQ/g (ピコグラム)](表 40)

地点・年	H26	地点・年	H27	地点・年	H28
新和仲橋 (大場川)	0.31	八木郷橋 (大場川)	0.87	中橋 (大場川)	1.6
蓮沼橋 (第二大場川)	0.64	第二彦糸橋 (第二大場川)	0.98	南通り橋 (第二大場川)	0.97

